

国際セミナー

アメリカから日本へ、そして今、アジアの国々へ —障害分野における人材育成の在り方から考える—

アメリカで学んだ日本の障害者たちが日本の社会を変えてきたように、今、アジアの障害者たちが日本で学び、自分たちの国の社会を変えつつあります。それらの背景にあるのが、日本の援助団体が実施している人材育成事業です。国際障害者年から30年経った今、求められるリーダーとは何か？ そして、次世代のリーダーたちの思いとは？ このセミナーでは、これらの側面から人材育成の在り方を考えます。

1. 日時

平成24年5月25日（金）

①セミナー：10時～17時（受付：9時半開始） ②交流会：18時～20時

2. 会場

日本財団ビル 2階 大会議室 A（申込用紙の地図をご参照ください）

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2

3. 定員

国際セミナー 200名 懇親会 50名（ともに先着順）

4. 参加費

①国際セミナー：無料 ②交流会：2,000円

5. 主催

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

6. 協賛

米国大使館

公益財団法人 日本財団

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

特定非営利活動法人 自立生活センターさっぽろ

7. 後援（予定）

外務省、厚生労働省、日本障害フォーラム

8. 問合せ先

日本障害者リハビリテーション協会 研修課

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1

電話：03-5273-0633 FAX：03-5273-1523 Email：inquiry@dinf.ne.jp

9. プログラム

時間	内容	スピーカーなど
09:00-10:00	受付	
10:00-10:20	開会	日本障害者リハビリテーション協会
10:20-10:50	基調講演	求められる障害者リーダー像 ～アメリカの事例から～ ラーニー・パトリック (アクセスリビングCIL ディレクター)
10:55-11:25	特別講演	障害分野におけるリーダー育成の効果 ジュディ・ヒューマン(米国国務省 障害分野特別顧問)
11:30-12:15	事例報告	アメリカで学び、育った日本の障害者リーダーたち <ul style="list-style-type: none"> ◎ ダスキン愛の輪基金：谷合文広(事務局長) 平野みどり(熊本県議会議員) ◎ 日本財団：石井靖乃(国際協力グループ グループ長) 岡田孝和(日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト プロジェクト・マネージャー) 財団研修卒業生 午前司会：中西由起子(アジア・ディセビリティ・インSTITUTE代表)
12:15-13:30	昼食休憩	
13:30-15:40	パネ ル ディスカッション	アメリカから日本へ、そして今アジアの国々へ ～次世代を担うリーダーたちの決意～ 《パネリスト》 <ul style="list-style-type: none"> ◎ シャフィック・ウル・ラフマン (パキスタン) ◎ リン・チュン・チェ (台湾) ◎ オンダラフバヤール・チョロンダワ (モンゴル) ◎ 光岡芳宏 (ヒューマンケア協会) ◎ 内村恵美 (自立生活夢宙センター) 《コメンテーター》 <ul style="list-style-type: none"> ◎ ジュディ・ヒューマン ◎ ラーニー・パトリック 《ファシリテーター》 長瀬修(立命館大学)
15:40-16:00	休憩	
16:00-16:30	質疑応答	長瀬修
16:30-16:50	まとめ	中西由起子
16:50-17:00	閉会挨拶	日本障害者リハビリテーション協会
18:00-20:00	交流会	

アメリカからのスピーカー紹介



ジュディ・ヒューマン (Judith E. Heumann)

米国国務省特別顧問 (2010年6月～)

ジュディ・ヒューマン氏は、これまで30年以上にわたって世界中の障害者団体と連携し、障害者運動の第一線で活躍してきた。1995年には、メキシコで開催された国際障害会義において教育長官リチャード・ライリー氏(当時)の代理をつとめたほか、北京で開かれた第4回国連女性会議へも米国より派遣された。また、障害者インターナショナル(Disability People's International, DPI)、国際リハビリテーション協会(Rehabilitation International, RI)および、世界各地の自立生活センターのパートナーとして活動している。さらにヒュー

マンは、米国カリフォルニア州バークレーの自立生活センターの共同設立者であると同時に、同州オークランドの世界障害研究所の立ち上げにも携わっている。



ラーニー・パトリック (Rahnee K. Patrick)

シカゴ・アクセシビリティ・ディレクター

ラーニー・パトリック氏は米国軍人の父とタイ人の母との間に生まれ、インディアナ州のノースリバティーという小さな町で幼少期を過ごした。インディアナ大学在学中に障害をもつ友人らとSTAARという学生団体を立ち上げ、当事者運動をはじめた。1996年に大学を卒業した後は、ADAPTという当事者団体を拠点として自立生活運動や権利擁護運動に尽力したほか、Not Yet Deadというグループにも加わった。それらの活動は時に市民的不服従として捉えられ、十数回の逮捕に及んだが、パトリック氏は信念を貫き活動を続けてきた。現在もADAPTにおいて若者リーダー研修の専門家とし

て活躍している。2007年にはイリノイ州知事にその功績を認められ、同州の障害児教育諮問委員会に任命された。また、執筆家としても高く評価されており、2008年にはアメリカ障害者協会(AAPD)のポールハーン賞を受賞している。現在、パトリック氏は同協会の理事も務めている。

